

生命科学データの オープンな流通・活用の 再構築

— AI時代のデータ共有とガバナンスを考える —

参加
無料

2026年9月27日(日) 13:00~18:00

 日本学術会議講堂 (東京都港区六本木7-22-34)

 ZOOMによるオンライン同時開催



生物資源
(生物多様性・バイオバンク)



医療データ
(ヒトデータ)



メタゲノムデータ
(自然界)



タンパク質構造
データ



バイオイメーキングデータ



AI・データ統合・解析基盤

ゲノム、タンパク質構造、医療情報、バイオイメーキングなど多様な生命科学データは、重要な研究基盤です。これらのオープンな流通・活用には、個人情報保護、国際的利益配分、産業競争力、データ維持問題など、新たな課題が生まれています。さらにAIの存在がこれらの課題を拡大し複雑化しています。本シンポジウムでは、現在、取りまとめている提言の議論を出発点に、AI時代にふさわしいデータ共有とガバナンスのあり方を、多様な立場から考えます。

スケジュール

- 13:00~13:05 開会挨拶・趣旨説明
諏訪 牧子 (連携会員/青山学院大学 理工学部)
- 13:05~13:25 特別講演①
倉田 佳奈江 (文部科学省 ライフサイエンス課課長)
- 13:25~14:00 特別講演②
相澤 彰子 (連携会員/情報・システム研究機構 国立情報学研究所)
AIエージェントと知識統合による
データの流通・活用
- 14:10~15:40 第一部
- 15:45~17:15 第二部
- 17:25~18:00 パネルディスカッション
パネリスト: 講演者全員
- 18:00~18:05 閉会挨拶
上田 昌宏 (連携会員/大阪大学
大学院生命機能研究科)

※時間は目安です。進行により前後する場合があります。

第一部 14:10~15:40 — 多様な生命データのケーススタディ —



社会インフラとしてのバイオバンクにおける
データガバナンスの現状と課題

木下 賢吾
東北大学
情報科学研究科



生物資源の現状とあるべき姿、
特にDSI問題について

鈴木 暁昭
特任連携会員/情報・システム研究機構
国立遺伝学研究所



メタゲノムデータの価値と
産業利用の未来

山田 拓司
東京科学大学 生命工学部 /
(株) メタジェン

第二部 15:45~17:15 — データの流通・活用を支える技術基盤 —



タンパク質構造データの
オープンな利活用維持と今後の課題

栗栖 源嗣
大阪大学 蛋白質研究所



バイオイメーキングデータの
オープン化への現状と今後の在り方

永井 健治
連携会員/大阪大学
産業科学研究所



AIに対応するデータベースの在り方と
データ統合・解析基盤の技術開発

片山 俊明
情報・システム研究機構
国立遺伝学研究所

17:25~18:00 パネルディスカッション パネリスト: 講演者全員

主催

統合生物学委員会・基礎生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会・
情報学委員会・バイオインフォマティクス分科会・生物物理分科会・IUPAB分科会・
遺伝資源分科会・ゲノム科学分科会
諏訪 牧子 (青山学院大学 理工学部) 上田 昌宏 (大阪大学 大学院生命機能研究科)
有田 正規 (大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所)

世話人

参加無料

最新情報・参加申込はこちら

